

第5学年 家庭科学学習指導案

に組 男子 15 名 女子 18 名 計 33 名

指導者 日 高 佳 菜

1 題 材 気持ちよく生活しよう I ～すっきりぴかぴか大作戦～

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

家庭科学学習の入門期にあたるこの期の子どもたちは、学校や家庭生活の中で、後片付けをしたり、汚れている部分を掃除したりするなど、日常的に整理・整頓や清掃の経験をしてきている。また、自分の家庭生活を見つめ、家族の一員としての役割や家庭での仕事についての学習を通して、自分は家族を構成する一人であることを実感し、自分の身の回りだけでなく、家族が利用する場所を快適にしたいなど家族のためにできることは何かを考え、実践してみたいという願いをもっている。

そこで本題材では、気持ちよく生活するための住まい方に関心をもち、整理・整頓や清掃の工夫について、健康・快適・安全や環境・消費、協力・協働などの考察する視点をもって追求する活動を通して、場所や使う目的に応じた整理・整頓や汚れの種類に応じた清掃を行う必要性に気づき、できるようになることをねらっている。また、生活を振り返り、「してもらう自分」から「できる自分」になることで家族や地域、社会のよりよい生活につながることに気づき、整理・整頓や清掃を通して、主体的に生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を高めることをねらっている。

これらの学習は、寒い時期を快適に過ごすための工夫を調べ、身の回りを心地よく快適に整えようとし、暑さ・寒さ、通風・換気、採光、及び音などの視点から、季節の変化に合わせた住まい方を考え、快適な住まい方を工夫していく「冬を快適に過ごそう」の学習へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

気持ちよく生活するとは、空間の中に存在する誰もが活動しやすく、心が落ち着ける状態であり、快適に過ごすことができることと捉える。整理・整頓とは、使うかどうかを考えて必要、不必要な物に分け、物を決められた場所に戻したり、使いやすく整えたりすることである。清掃とは、ゴミや汚れなどを取り除き、清潔に保つことである。これらのことから、機能面等の観点から整理・整頓をしたり、健康面等の観点から清掃をしたりすることは、主体的に住まいの目的に応じてよりよい空間を整えていこうとする実践的な態度を育てる上で大切なことである。

そこで、本題材では、整理・整頓や清掃の工夫について追求することを通して、機能面や安全面、環境面などの観点から身の回りを整えることが家庭や社会、地域においてもよりよい快適な生活になることを実感させ、主体的に住まいをよりよく工夫しようとする実践的な態度を高めていきたい。

具体的には、まず、子どもの思いや願いを高めることができるようにするために、整理・整頓や清掃をしないことで起こる問題を見だし、追求課題を設定させる。次に、目的意識をもって追求活動をしたり、実践につなげたりすることができるようにするために、家族や地域、社会のよりよい生活につながることを実感させる。その際、共通課題を設定し、整理・整頓や清掃の問題を捉えるための観点を見いださせる。また、観点をもとに見いだした問題から課題を設定し、課題解決することができるようにするために、場所ごとの課題別グループを編成し、整理・整頓や清掃の工夫を追求し、実践へつなげていく。さらに、観点に応じた解決策を情報交換する場を設け、よりよい整理・整頓や清掃の工夫を、自分や家族、家庭の状況や課題と関連付けながら見だし、目的に応じた整理・整頓や清掃の工夫を提案することができるようにする。

これらの学習を通して、家庭生活を大切にすることを育み、自分の考えと友達の考えとを機能面や健康面などの観点から比較したり、見いだされた解決策を自分の課題に関連付けたりして、整理・整頓や清掃のよりよい工夫を見いだすことができるようになる。このような学習を積み重ねることで、日常生活から問題を見だし、課題解決の過程の中で身の回りの住環境を整え、家族の一員として家庭生活をよりよく工夫していこうとすることができるようになっていく。

(3) 児童の実態（質問紙法、複数回答有り）

- | | |
|---|---|
| ① | <u>家庭生活の中でできるようになりたいこと</u>
調理 29, 裁縫 9, 片付け 1 |
| ② | <u>家庭科の学習がどのように生かせるか</u>
料理 12, 手伝い 11, 家族を助ける 10, 裁縫 6
親がいないとき 4, 自立したとき 3, 日常生活 2 |
| ③ | <u>整理・整頓をするときに考えること</u>
機能面 16 (置く場所 9, 種類に分ける 5, ラベルをつける 1), 見た目 6, いる物といない物の分類 2, その他 (作業の丁寧さ 4, 短時間 3), 分からない 4 |
| ④ | <u>清掃の方法と汚れの種類</u>
○方法 (拭く 20, 掃く 12, 洗う 6, 擦る 4)
○種類 (ほこり 27, カビ 9, 髪の毛 9, 油汚れ 6, 垢 5, 砂・泥 4, 紙くず 3, 墨 2, インク 2) |
| ⑤ | <u>清掃をするときに考えること</u>
見た目 18, 使う人 6, 清潔さ 5, 道具 5, 見えない所 4, 短時間 3, 順序 3 |
| ⑥ | <u>家庭での清掃の経験</u>
自分の部屋 16, 玄関 8, 棚の上 5, 床 4, 風呂場 4, 棚の裏 2, リビング 3, ベランダ 1, 畳 1 |
| ⑦ | <u>学び方</u>
インターネット 14, インタビュー 13, 本・教科書 10, 友達に聞く 7, 実際にしてみる 5, 学習を生かす 3 |

本学級の子どもたちは、①から、家庭生活において、住まいを整えることの必要性への意識が低いことが分かる。②から、家庭科の学習が生活に役立つと感じていることが分かる。このことから、家庭で生かしていきたいという実践的な意欲が高いと考えられるので、家庭生活の中で実践する機会を設定していきたいと考える。③から、置く場所、きれいさなど機能面や見た目については考えている子どもはいるが、配置方法や使う頻度など安全面や消費面などについては考えられていないことが分かる。これは、多様な観点をもって整理・整頓する必要性を実感できていないことが考えられる。このことから、共通の場所や条件設定を課題とし、整理・整頓に必要な観点を見いだしていく必要がある。④から、雑巾で拭いたり、ほうきで掃いたりするなど日常的に行っている方法は身に付いていることが分かる。一方で、かびや水垢、油汚れなど家庭で多く見られる汚れの清掃方法に

ついては理解していないことが分かる。⑤から、見た目に気を付けて清掃しているが、汚れの種類に応じた清掃については意識をしていないことが分かる。④⑤から、汚れの種類に応じた清掃の必要性に気付かせ、健康面や安全面など観点から清掃することができるようにしていく必要がある。⑥から、家庭の清掃については、自分の身の回りを中心に行っており、家族が使う場所については、自分以外の家族が行っていることが分かる。⑦から、友達の考えにふれたり、実際にやってみたりして、課題を明らかにしていく追求活動の必要性に気付いていないことが分かる。よって、整理・整頓や清掃の工夫について追求したことを家庭に置き換えて考えさせたり、本当に有効な方法であるかを吟味したりするなどして体験的に課題解決させていく必要がある。

このようなことから、日常生活を振り返らせ、整理・整頓や清掃を他の人にしてもらっていることに気付かせ、生活の問題から自分で整理・整頓や清掃をしていこうという思いをもたせたい。そして、観点をもとに生活の問題を見いださせ、その問題を解決し、気持ちよく生活するにはどのような整理・整頓や清掃の工夫をしていけばよいかを考えさせていきたい。さらに、体験的に追求したことの事実から自分なりの解決策を見だし、主体的に家庭や学校で実践をしたり、よりよい整理・整頓や清掃の工夫の仕方を提案させたりしていきたい。

(4) 指導上の留意点

ア 整理・整頓や清掃の必要性に気付き、実践への意欲を高めさせるために、共通課題から機能面や健康面、環境面などの観点を見いださせ、観点をもとに自分の問題を捉えさせるようにする。また、目的意識をもって追求活動を進められるようにするために、家族や地域、社会においてどのように生かされていくのかを考えさせる。

イ 課題意識をもって追求活動を行うことができるようにするために、場所ごとの課題別グループを編成し、観点から捉えた生活の問題を解決するための使う人や場所などの目的に応じた工夫について考えさせる。追求する際は、観点に応じた解決策を他のグループと情報交換をする場を設け、実践したことを評価、改善していくようにする。

ウ 住まいをよりよいものにしようとする実践的な態度を高めることができるようにするために、家庭での実践計画を立てさせたり、整理・整頓や清掃について下級生に提案させたりして、達成感を実感させる。

3 目 標

- (1) 家庭における整理・整頓や清掃の問題に気付く、気持ちよく生活できる住まいに関心を持ち、自分の住まいを整えていこうとすることができる。
- (2) 気持ちよく生活するために、機能面や安全面を配慮した整理・整頓や安全面や健康面を配慮した清掃のよさについて考え、使う人や場所などの目的に応じた整理・整頓や清掃の必要性について多角的に捉えることができる。
- (3) ・ 使う人や場所などの目的に応じた整理・整頓や清掃の仕方が分かる。
・ 気持ちよく生活するための整理・整頓や清掃の工夫を実践することができる。

4 指導計画（全 10 時間）

過程	学ぶ喜びや楽しさ	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
みつめる・つかむ・見通す	物をすぐ無くしてしまう。家の清掃は、ほとんど親がしているな。	1 自分の生活を振り返り、生活の問題から自分の課題を設定し、学習テーマを設定する。①	○ 生活の問題に気付くことができるようにするために、整理・整頓や清掃をしないことでどのような問題が起こるのかを問い、自分の課題を設定させる。
	工夫が分かることで、家庭だけでなく社会にまで生かすことができるようになるのだな。	みんなが気持ちよく生活できる整理・整頓や清掃の工夫を提案しよう。	○ 整理・整頓や清掃の必要性に気付かせるために、かびやほこりなどが人体に与える影響やけがや事故の危険性については資料等を用いて補足説明するようにする。
	機能面だけではなく、安全面や環境面、消費面の観点から考えれば、よりよい整理・整頓や清掃の工夫が見付けられそうだ。	2 共通課題から整理・整頓や清掃の問題を見いだすための観点について考える。②（本時）	○ 生活の問題を多角的に捉えさせるために、整理・整頓や清掃の具体的な共通場面を提示し、問題の観点を見いだし、観点をもとに生活の問題を捉え直させる。
	冷蔵庫で使う物を探してしまうことがある。機能面や消費面の観点から使いやすくすることができそうだな。	3 整理・整頓の課題別グループに分かれ、解決策について話し合い、課題を追求し、情報交換を行い、よりよい整理・整頓の工夫について考える。③④⑤	○ 使う人や場所などの目的に応じた整理・整頓の工夫を考えることができるようにするために、場所ごとの課題別グループを編成し、追求活動を行う。その際、観点に応じた問題点の解決策を情報交換する場を設け、自分の問題の解決策を明らかにさせる。
	ほこりやかびなど汚れの種類に応じて清掃していく必要がありそうだ。	4 清掃の課題別グループに分かれ、解決策について話し合い、課題を追求し、情報交換を行い、よりよい清掃の工夫について考える。⑥⑦⑧	○ 汚れの種類に応じた清掃の必要性に気付くことができるようにするために、場所ごとの汚れを考えさせ、環境面や消費面などの観点から清掃の工夫について考えさせる。その際、洗剤を混ぜて使う危険性について確認し、安全面の観点から表示をよく見て使用する必要性に気付くことができるようにする。
追求する	玄関は、掃くと砂が舞うので、濡れた新聞紙や茶殻と一緒に掃くとよいと祖母から聞いたよ。	5 よりよい整理・整頓や清掃について追求したことをもとに、家庭での実践計画を立てる。⑨	○ これまでの学習を自分の家庭での実践に生かすことができるようにするために、学習で得た整理・整頓や清掃の工夫についての情報と自分の生活の問題とを関連付けさせ、実践計画を立てさせる。また、実践後の成果・課題を明らかにした評価を行わせる。
	捨てるはずの物を使って環境にも優しい清掃ができそうだ。地域や社会にも生かせそうだ。	6 家庭での実践報告会を行う。また、下級生へ向けて学校でできる整理・整頓や清掃の工夫を提案する。⑩	○ 達成感を高めることができるようにするために、家族からのコメントをもらうようにする。また、学校でできる引き出しやロッカーなどの整理・整頓や清掃の工夫を下級生に提案させる。
まとめる・生活化への意欲付け	見いだした観点は、家庭の様々な場所で生かされたよ。学校の引き出しやロッカー、教室清掃に生かせそうだ。下級生に伝えよう。		

5 本時（2／10）

(1) 目標

整理・整頓や清掃についての生活の問題を多角的に捉えさせるために、整理・整頓や清掃における共通場面の問題の内容を分類し、機能面や健康面、環境面など観点を見いだすことができる。また、見いだされた観点から自分の問題を捉え直すことができる。

(2) 本時の展開にあたって

本時の展開にあたっては、生活の問題を多角的に捉えるための観点を見いだすために、家庭場面での整理・整頓や清掃が必要な場所の写真を提示し、問題の内容を分類する活動を設定する。また、家庭だけでなく、地域、社会においても観点を生かした整理・整頓や清掃をすることのよさについて考えられるようにするために、機能面や健康面などの観点を生かした地域の施設や取組についての写真を提示し、観点のよさについて気付かせることができるような学習を展開していきたい。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ																		
みつめる・つかむ・見通す	1 前時を振り返り、学習課題を設定する。  わたしの部屋では、物が見つからない。物が積み重なっていて危ないなどの問題があるよ。 整理・整頓や清掃の問題を見いだすためには、どのような面から考えればよいのだろうか。	(分) ↑ 5	○ 整理・整頓や清掃の問題をより多角的に捉えさせるために、「生活の問題を全て見いだすことができたのだろうか。」と問う。その際、前時の板書を提示し、問題を捉え直す必要性を感じさせる。 ○ 多くの生活の問題点に目を向けられようするために、共通場面として改善が必要な家庭にある食器棚や風呂場、クローゼットなどの写真を提示し、問題点について話し合わせる。																		
	2 家庭生活における整理・整頓や清掃の共通場面から問題を出し合い、問題の内容を分類するための観点について考える。 ＜共通場面＞ <table border="1"><thead><tr><th></th><th>食器棚</th><th>風呂場</th><th>クローゼット</th></tr></thead><tbody><tr><td>健康面</td><td>ほこりをかぶっている。</td><td>壁にカビが生えている。髪の毛などがつまる。</td><td>手の届かない高い所にほこりがある。</td></tr><tr><td>機能面</td><td>見つけにくい。取り出しにくい。</td><td>洗面道具にぬめりがある。</td><td>見つけにくい。取り出しにくい。</td></tr><tr><td>安全面</td><td>高く積み重なっている。</td><td>床が滑りやすい。洗剤が置いてある。</td><td>たくさんの洋服をかけている。</td></tr><tr><td>消費面</td><td>割れたり壊れたりする。</td><td>鏡に水垢がついている。見えにくい。</td><td>購入するものが増える。</td></tr></tbody></table> 問題を捉えるための観点  観点をもって自分の生活を振り返ると気付かなかった問題点にも目を向けることができるね。			食器棚	風呂場	クローゼット	健康面	ほこりをかぶっている。	壁にカビが生えている。髪の毛などがつまる。	手の届かない高い所にほこりがある。	機能面	見つけにくい。取り出しにくい。	洗面道具にぬめりがある。	見つけにくい。取り出しにくい。	安全面	高く積み重なっている。	床が滑りやすい。洗剤が置いてある。	たくさんの洋服をかけている。	消費面	割れたり壊れたりする。	鏡に水垢がついている。見えにくい。
	食器棚	風呂場	クローゼット																		
健康面	ほこりをかぶっている。	壁にカビが生えている。髪の毛などがつまる。	手の届かない高い所にほこりがある。																		
機能面	見つけにくい。取り出しにくい。	洗面道具にぬめりがある。	見つけにくい。取り出しにくい。																		
安全面	高く積み重なっている。	床が滑りやすい。洗剤が置いてある。	たくさんの洋服をかけている。																		
消費面	割れたり壊れたりする。	鏡に水垢がついている。見えにくい。	購入するものが増える。																		
追求する	3 観点をもとに家庭、地域や社会の整理・整頓や清掃について振り返る。  消費面から考えると引き出しの中の文房具は、同じ物がたくさんあるという問題があるな。	× 10	○ 生活の問題を捉える上で必要な観点を見いださせるために、共通場面によって見いだされた問題点の内容を分類させる。その際、どのような考えで分類することができるのかを問う。 ○ 見いだされた健康面や機能面、安全面などの観点のよさを感じられるようにするために、再度観点をもって共通場面を見直し、問題を多角的に捉えられるようにする。 ○ 家庭だけでなく、地域や社会においても観点をもって問題を捉えられるようにするために、観点のよさを生かした地域の施設や取組についての写真を提示し、「なぜこのような問題が起きるのか」「どうしてうまくいっているのか」と問う。																		
	4 学習のまとめをする。 整理・整頓や清掃の問題を、機能面や安全面、健康面などの観点から見いだせばよい。	× 10																			
	5 本時の学習を振り返り、振り返りカードを記入する。 最初に考えていた生活の問題より、多くの観点から問題を見いだすことができたよ。すべての問題を解決して、解決策を実践してみたいな。 	↓ 10																			
まとめる・生活化への意欲付け			○ 学びの価値を実感できるようにするために、観点をもとに自分の生活の問題点を捉え直させ、前時より多角的に捉えられていることを賞賛する。																		